

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年9月17日

【評価実施概要】

事業所番号	3770200412
法人名	社会福祉法人 厚仁会
事業所名	グループホームさぬき富士
所在地	香川県丸亀市飯野町東分2701番地1 (電話)0877-21-1000

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会		
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号		
訪問調査日	平成21年7月28日	評価決定日	平成21年9月17日

【情報提供票より】(21年6月12日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年1月18日				
ユニット数	1ユニット	利用定員数計	9人		
職員数	8人	常勤	7人, 非常勤	1人(兼務), 常勤換算	7.2人

(2)建物概要

建物構造	鉄骨造り
	1階建ての1階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	35,000円	その他の経費(月額)	8,000円+実費	
敷金	有()円	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有()円	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	1日当たり	1,200円		

(4)利用者の概要(7月28日現在)

利用者人数	9名	男性	0名	女性	9名	
要介護1	0名	要介護2	3名			
要介護3	4名	要介護4	1名			
要介護5	1名	要支援2	0名			
年齢	平均	85.1歳	最低	76歳	最高	98歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	厚仁病院
---------	------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

グループホームさぬき富士は、讃岐富士飯野山の麓斜面を切り開いて造成された土地に建設されている。隣接して同一法人の経営する特別養護老人ホームやケアハウス、デイサービスセンター、そして介護福祉士養成施設を備えており、教育と介護現場が統合されたユニークな環境にある。職員のほとんどは、介護福祉士の有資格者であり、職場に定着している。従って、利用者は馴染みの職員に見守られ、安心、笑顔で暮らしている。利用者中心の丁寧なケアが行われている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	理念の具体化については、理念が日常業務に活かしているかを職員個々が振りかえり、勉強会でもそれに取り組んでいくよう務めている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	昨年に引き続き、全職員が自己評価票に記入し、介護支援専門員がまとめ、それを更に職員勉強会で意見交換して完成させた。このプロセスを経て、職員のサービス評価に対する意義の理解が進んでいる。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	ホームからの業務報告以外にもメンバーから介護や福祉、行政についてさまざまな意見が出され、活発な推進会議となっている。なお、メンバーに地域の民生委員や自治会の代表者等を加えると、より地域と密着した意見交換やホームの理解、協力が進むと思われる。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族に分からないことや不安なこと、苦情等があれば気軽に言ってもらえる関係は維持してきている。ホームからは利用者の健康や生活の様子については面会の都度、丁寧に伝え安心してもらっている。ホーム便りも継続発行している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地形的にホームの方から地域に出かけていくことは困難があるが、福祉ボランティアを始め、地元小学生の訪問やお稽古事、芸能関係等多彩な人達が入りし、交流があるので、利用者は孤立することなく、地域住民の一員として暮らすことが出来ている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	一人ひとりの利用者が、地域の一員として安心、安全に暮らしていけるよう、「笑顔、優しさ、思いやり」の理念で日ごろのケアに当たっている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホームの理念である「笑顔、優しさ、思いやり」が、実践の中で自然体で表すことができるよう、職員個々が取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会の一斉清掃等には進んで参加したり、福祉ママや小学生を受け入れたりして、利用者が孤立することなく地域の一員としての自覚を持って生活していけるよう、職員は利用者の支援にあたっている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義について理解を深めるため、全職員に評価票を渡し記入してもらい管理者がまとめた。それを更に全員で意見交換して作り上げた。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には、ホームの業務報告以外にもメンバーから活発な意見が出ている。その意見をサービス向上に活かすよう努めている。	○	メンバーに地域の民生委員や自治会代表者、地域包括支援センター職員を加えると、より地域に密着した意見交換が期待でき、グループホームの理解、協力が進むと思われるので、その検討が望まれる。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市内のグループホーム計画作成担当者と、市担当職員が集まる研修会を隔月に開催している。そこで行政説明を聞いたり、事例検討等をしてサービスの質の向上につなげている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ホームの行事や面会時に、家族に対して本人の健康状態や生活の様子を伝え、安心してもらえるようにしている。ホーム便りも定期的に発行している。職員の名前と顔写真は入り口付近に掲示している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族に分からないことや不安なこと、苦情等があれば気軽に言ってもらえる関係は維持している。ホームからは利用者の健康や生活の様子について面会の都度、丁寧に伝え安心してもらっている。ホーム便りも継続発行している。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	管理者は、職員の異動は最小限に留め、職員が定着することを大事に考えている。異動があった場合は、利用者にはダメージを与えないよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回程度、内部研修(勉強会)を実施している。また、同一法人の研修委員会で企画した研修会には極力参加できるよう配慮している。	○	外部研修会への職員派遣が少ない。特に認知症介護の実践者研修やリーダー研修には計画的に受講できる配慮を期待したい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の介護支援課の主導でグループホーム職員のネットワーク作りが進んでいる。勉強会や同業者同士の相互交流が始まっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前には管理者が家庭訪問をして本人に納得のいく説明をし、馴染みの関係をつくり、見学もしてもらって徐々に利用に結びつくようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	馴染みの関係が深まるよう職員は、利用者に寄り添い一緒に過ごしながら、喜怒哀楽を共にしている。人生の先輩として利用者から学ぶことも多い。支えたり支えられたりの関係を築いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの思いや過ごし方のニーズを把握するよう努め、意思表示の困難な利用者には職員間で話し合ったり、家族の意見を聞いたりして本人本位の支援となるよう検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人、家族、かかりつけ医、看護師等の意見を取り入れて、本人がホームでより良く過ごすことが出来るよう、また自立支援につながるような介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	月1回のモニタリングや、3か月毎の介護計画の見直しを行っている。また、急な変化が起きたときは、その都度家族等とも話し合っ計画の再検討を行っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	敷地内に同一法人経営の特別養護老人ホームやケアハウス等があるので相互訪問したり、合同で行事したりしている。また、身体機能の衰えが進んで重度の人には、特別養護老人ホームの機械浴槽を利用している。職員や利用者の相互訪問もある。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の多くは提携病院にかかっている。そこへの受診はホーム職員が行っている。定期的な往診もある。その他の医療機関への受診は家族にお願いすることがある。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時に、本人の終末期をどうするかを家族と話し合い、意向を確認している。その時期が来たときは再度家族と話し合う。希望があれば、ホームで看取りも行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保に努めているが、間違えて他人の部屋に入る利用者があり、見守りが必要である。記録類は人目につかないよう厳重管理している。トイレ誘導はさりげなく声かけをしている。	○	サンルーム近くにあるトイレは狭く、カーテンが床まで垂れていないので、排泄の様子が外から見える。プライバシー確保の環境改善が望まれる。
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	意欲が乏しくなった利用者が多いので、歌、体操、ゲーム等のレクリエーションを積極的に取り入れている。また、昔話に付き合ったりして利用者の脳の活性化を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食欲をそそる様な盛り付けを工夫し、職員共々食事を楽しんでいる。必要な人にはさりげなく介助が行われている。準備や後片付けも利用者が出来ることを手伝い、自然な動きが見られる。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	本人の希望を聞いて日中入浴の支援を行っている。重度障害者には、隣接の特別養護老人ホームで機械浴を実施している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや喜びのある日々を過ごしてもらえよう、一人ひとりの生活歴や特技を把握して、役割、楽しみごとを引き出し、支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホーム周辺はきつい坂道になっているので、民家付近までの散歩は困難な環境にあり、日常的な外出支援は十分とはいえない。時々の買い物や行事は車を利用している。	○	せめて玄関周辺にでも、日常的に外に出て気分転換を図り、軽い体操等して少しでも利用者の機能低下を予防する支援に期待したい。また、外出支援ボランティアを求めるなどの工夫も検討されたい。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	職員は、日中鍵をかけることによる弊害を理解して、鍵をかけないケアを行っている。但し、利用者の一部に情緒が不安定になって出て行きそうになることがあるときは一時的に施錠することがある。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	災害を想定して定期的に避難訓練を実施している。また、災害時には地域の人々の協力を取り付けており、近隣の人を加えた消防防災組織を作っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日7回の水分摂取、栄養士による栄養バランスを考慮した献立が行われている。食べ過ぎには気をつけている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールには天窓があつて、夏は日差しを遮るため簾に朝顔を配し、洒落た雰囲気をかもし出している。南側は大きな窓をはめ込みサンルームになっている。また、壁面には写真やカレンダー、献立表、職員の顔写真等で飾られ、落ち着いた雰囲気がある。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は、本人や家族と相談して使い慣れた家具や置物などを持ち込み、各自好みのレイアウトを施して、居心地良く過ごせるようにしている。		